

龍宝石（鯛寄石）



三島神社の境内に龍宝石（鯛寄石）と呼ばれる巨石があり、次の伝承が伝えられている。

毎日、中曾根の庄屋、今村家に鯛を売りにくる漁師がいた。庄屋が漁師に、「この鯛は、どこからとってくるのか」と尋ねたところ、「余木崎の沖合に、竜宝のような珍しい石があり、毎日2匹の鯛が現れる」と答えた。そこで、庄屋は、その石を家の庭まで運んだ。「珍しい龍宝石」だと毎日、多くの人が見に来た。しかし、この石を運んでから、庄屋の家では不幸が続いた。そこで、拜んでもらったところ、「毎日きれいな海水を汲んで、石にかけ、海の神様を祀りなさい」とお告げがあった。庄屋は、毎日毎日、海まで水を汲みに行き、石にかけたという。庄屋がなくなったあと、子孫が、この石を三島神社に寄付したという。

中曾根の今村家庄屋敷跡から海岸までの道は、「汐汲み道」と呼ばれている。